

広報にゅうぜん

No.311

昭和58年7月1日発行
毎月1回 1日発行
発行所 入善町役場
富山県入善町入膳3255
☎0765-72-1100(〒939-06)



ふれあい
シリーズ

お母さん、
しっかりダッコしてね!!
入善小・親子運動会から

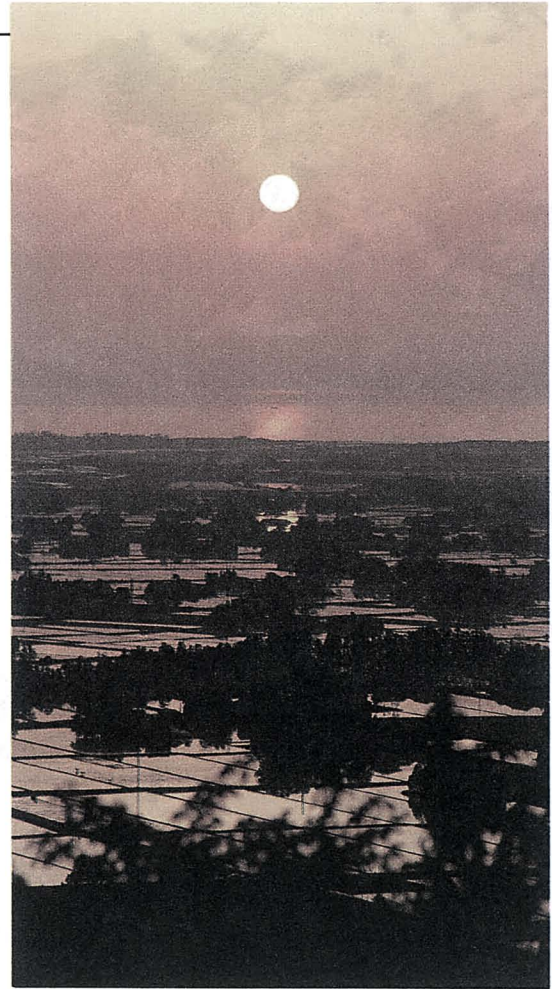
7月号

6月12日、入善小学校で行われた『親子運動会』から、4年生の児童と親による“今から10年前”という競技です。

「10年前なら軽くダッコできたのに」と、やっとの思いでわが子を抱えるお母さん。重くとも、自然にうれしさが込めてきます。

制定しました

よりどころに



▲美しく、かけがえのない自然——。これを守るのは私たち自身です。

町では、合併30周年記念事業の一つとして、町民憲章の制定を進めてきましたが、その憲章文が6月定例議会で審議され、可決されました。

町は同憲章制定のため、昨年11月に同審議会委員(世島太一会長)と起草委員(奥田新作委員長)を委嘱して検討を重ねてきたもので、5月17日に同審議会から答申がありました。

「入善町民憲章」は、町の個性、特色を生かし、町民の生活、市政の指針となるものを骨子として、次の5つの柱で構成されています。

今後、町内7千500世帯に同憲章を印刷して配布するほか、役場前に町民憲章碑を建立し、10月1日の30周年記念式典で除幕するなど、積極的にPRしたいと考えています。

1 郷土の自然を守る

美しい風土を子々孫々に残そう

入善町は、海と川と野と山に恵まれていて、

しかし、産業の近代化は入善町の自然を変え、また、科学技術導入による生活環境・様式の改善な

どは、自然の破壊、汚染をもたらしつつある。

破壊された自然は、もとの姿に還らない。産業の振興、生活環境・様式などの改善にはおのずから自

然破壊、汚染が伴うとしても、活力に満ちたより住みよい町づくりは、同時に自然との調和、自然の保存につながらなければならぬであろう。

2

職業を尊び

勤労をとおして公共の

福祉に貢献しよう

職業は、生活の糧を得るためだけのものではないはずである。どのような仕事も他の人々の暮らしを支えている。われわれが知識を高め技を磨くのは、他の人々の暮らしに寄与するためでもある。

また、どのような仕事も社会と深いかわりをもつことにおいて、職業に上下の区別はなからう。自分の仕事に誇りと自信をもち、他の人々の生活、生きることへ寄与していることにも心をとめながら、仕事に励むことが勤労の精神であり、社会への貢献である。

「町民憲章」にひとこと……

実現のため、努力を



上田 加次さん
(入膳・自営業)

町議会や審議会などの英知を集めて作られた新総合計画に続いて、今度は町民憲章が制定されたとのこと——。

3万町民のうろおいに満ちた町づくりのため、いろいろな生活課題や自己啓発の必要性が一行一句に込められており、まことに喜ばしい限りです。

ただ、町と住民が憲章を十分に理解し、その実現に向かってお互いに努力しなければ、この憲章は単なる文章にしか過ぎないことを忘れてはならないと思う。



池原由美子さん
(芦崎・教員)

小さい子らに伝えたい

「ちょっと固苦しいナ」というのが、私の第一印象です。でも、私たちが人間として、当然しなけ

町民憲章を

町民の心の

3

個人の尊厳と価値観を

相互に尊重しよう

憲法は、一人一人の人間が平等であり、いかなる差別をも受けてはならないことを教えている。

人は、一回限りのかけがえのない生命と自律の精神をもって生きている。差別することなく、人間としての尊厳を相互に正しく理解する基盤がさらに整えられる必要がある。

また、一人一人の人間は独自の価値観を持ち、それに支えられて日々の生活を営んでいる。自分と

4

よき伝統と慣習を生かし より住みよい秩序の 創造に努めよう

は異なる考えに対しても寛容でなければならず、人それぞれの考えを互いに尊重し合う気風がよりよく根づく町づくり、家庭づくりが望まれる。



入善町長
柚木 春雄

3万町民の生活目標に

「現代は価値観が非常に多様化している」と言われる中で、私たち3万町民の生活目標みたいなものがあってもいいのではないかと、かねがね思っていました。

幸い、今年には合併30周年という記念すべき年でもあり、同じ郷土に住む私たちのあるべき姿を掲げ、それに向かってみんなで努力していこう——というのが、今回制定しました「町民憲章」です。

どうか、憲章の一語一語をかみしめていただき、今ある入善町をさらに明るく住み良い町にしたい。ただきたいと願う次第です。

なお、憲章の起草、及び審議をしていただきました委員各位の深いご理解とご協力に対し、心から感謝申し上げます。

5

文化と芸術を愛し すぐれた知性と豊かな 情緒を育成しよう

に基づく節度ある秩序がつくられるよう努めなければならぬ。

町民が幸せな人生を過ごすには、物質面のみではなく、精神面においても豊かであればならない。すぐれた文化や芸術にふれて知性を磨き、情緒を育てることがなければ、幸せな、よき人生を知ることができないであろう。

入善町には伝統文化も多い。それらの保存にも努めながら、新しい文化や芸術を学習して、ものを考える力、ものごとに感ずる心を豊かにしなければならぬ。

終わる……

以上のことを私たち一人一人が身に付けるとき、われわれの祖先が守りぬき、築きあげてきた郷土入善町は、更に活力とうるおいに満ちた明るい文化の町へと大きく発展することが期待される。

「町民憲章」の制定に携ったかたがた

■町民憲章審議委員

笹島太一、西島栄作（以上県議会議員）、上田義信、大林政雄、若島信行、西尾三郎、池原金与志、野坂俊一（以上町議会議員）、山本甚造（教育委員長）、四月朔日秀臣（農業委員会々長）、田原吉郎（区長会長）、大角秀尚（農協組合長）、米沢直次（商工会長）、柳田幸満、池原純一（57・58年度連青団長）、谷雪枝（連福会長）、石川昭男（PTA連福会長） 清田清一（前中央公民館長）、長島啓太郎（社会福祉協議会長）

■町民憲章起草委員

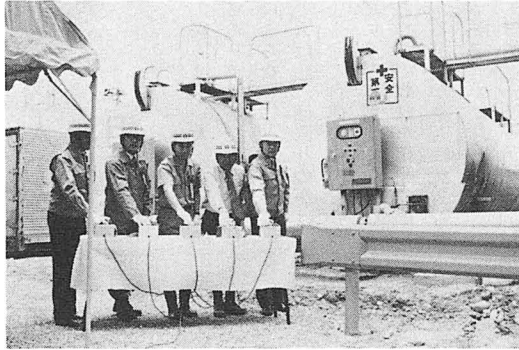
奥田新作、竹内慎一郎、小野常正、米島喜善、木本久美子（以上学識経験者）、本田弘（富大教授）、田原長五郎（前小中学校長会長） 中村寛（入善高校長）

敬称略

—入善はよくご存知でしたか？
 広田 生まれも育ちも魚津ですが、昨年こちらに転勤になるまで入善に足を下ろしたことがなく、この1年でようやく地理もわかっ
 てきました。
 —実際に来てみて、いかがですか？
 広田 仕事なんかで町内を回って
 みますと、ほとんどのかたが優
 しく、ホットな心情をお持ちです。

そとから見た にゅうぜん

昨年7月に北陸電力入善営業所に赴任された広田洋二さん（魚津市在住・41歳）——。入善での1年間を振り返っていただきました。



アスファルト生産始まる 北陸自動車道朝日舗装工事

北陸自動車道朝日舗装工事のアスファルトプラント火入れ式が、6月1日、上飯野のプラント基地で行われ、13日から生産が始まりました。
 黒部一朝日インター間8.24キロの舗装を行うもので、10月15日の完成まで約78,000トンを使用する予定。同プラントの生産能力は、1時間に180トン。道路幅12メートル、厚さ18センチに舗装します。

中国の技術研修生が 黒東小学校へ

新屋にある電子部品工場・富山昭栄（株）へ技術研修に訪れた中国の技術者6人が、6月2日、近くの黒東小学校で、子どもたちと給食を共にするなど、交流を深めました。「こんなにおいしい給食を食べられる日本の子どもは幸せですネ」と、感想を話していました。



"1年中、なっていたらなあ" 保育所園児のいちご狩り

6月2日、藤原地区で行われた保育所園児の「いちご狩り」のスナップです。
 真っ赤に色づいた『あまーいいちご』を口にほお張りながら、「1年中いちごがなっていたらいいのにナ」と大喜びでした。

かめら・とびつくす カメラ・トビックス かめら・とびつくす

田ノ入	新屋	青木	入膳	上野	浦山	新屋	神子	上野	上野	田ノ入	青島	東島	東島	梶山	小杉	下飯野	梶山	入膳	目川	墓川	笹原	青木	舟見	一宿	東川	上野	青島	住所
坂東正幸	上田範之	藤田一男	岩山光雄	田中義久	橋本健一	若狭俊彦	小沢昭彦	籠瀬益夫	宝田和明	坂東博	大角修	長田善忠	大井幸夫	扇原優一	中田久一雄	山崎春好	田中芳治	浜瀬克彦	杉沢初雄	大沢久好	島瀬義則	小林芳信	小林宗之	永井勇	川口昌	舟川宗仁	田中照夫	保護者
長女	長男	二女	二男	二女	長男	長女	長男	長女	長男	長女	二女	二女	長女	二女	長男	長男	長女	長男	長女	長男	長男	二男	長女	長男	長女	長男	二男	続柄
加奈子	貴央	智代	仁之	梨絵	勇也	紘子	詩織	健太	絵梨	俊明	宏美	江身子	美岬	美弥	隆春	豊心	友彰	枝里菜	義卓	義弘	祐也	春菜	長優	長み	翔太郎	直樹	名前	

おめでた



家計簿記帳から 得るもの

横山さん(野中)の応募作品から



まず記帳習慣を...

貯蓄増強中央委員会、各県貯蓄推進委員会主催の「第29回わが家の家計簿体験談」の中央入賞者に、入善町野中、横山トシエさん(農業・52歳)の「家計簿記帳から得るもの」が選ばれました。

応募作品の要旨

私と家計簿との出会いは、昭和51年に父が死亡、営農と家計の一切を任された時からです。上手な家計運営ができるよう、あせらず年度ごとに目標を立てて、記帳することになりました。

■記帳習慣を身につける

一度に営農と家計を預かったため、費目分類に苦労しましたが、家の光や日本銀行の家計簿の分類表などを参考にしながら、とにかく毎日記帳するよう心掛けました。

■飲食費と交際費の節減

土地を有効に活用し、年間を通しての野菜づくりで、その自給率を高めるため、近所の人たちと野菜づくり教室を開催。また、日常飲用するお茶も、健康茶、貧血予防茶など、教室のみなさんと合同採取しています。

交際費の節減では、高級メロンを栽培したり、農家主婦8名と特産大根のこうじ漬けを加工したりして、知人にも届けています。

■今後の取り組み

農家の嫁という立場で、長期の生活設計等があっても実現は困難なものでした。しかし、この尊い体験を生かし、農業や農家の後継者育成に努めるには、健全な家計運営を実現し、地区の若妻グループのかたがたにも伝えていきたいと思っています。

汽車通勤していきまして、黒部川を過ぎ入善に入ると、区画整理された水田の広がりとその緑が、ほかの市や町と違うような気がします。まさに「稲作の町・入善」といった印象です。

一方、企業などに目を向けますと、まだまだ活気に乏しく、今後も、工場誘致を積極的に進めていただきたいと思います。

「町づくりについて一言。」

広田 最近『町の花』を募集していましたが、指定後は、町民が協力して公共建物や道路沿いに植え込むなど、町全体をきれいに飾ったかどうか。

また、入善駅前の再開発も早く進めてほしい。農業の基盤整備のあとは、駅前の基盤整備にぜひ着手してほしい。そうすれば、入善町の印象もグッと上がると思います。

カメラ・ぴっぴくす カメラ・トミックス カメラ・ぴっぴくす



田原長五郎さん (入膳・60歳)

中央公民館長になった

「男子の利用も高めたい」

去る3月に、41年間の教員生活に別れを告げ、4月から町の中央公民館長に就任されました。

「これまで公民館活動に関わったことといえば、中央公民館の運営審議委員を2年余り勤めただけで、いまは人から教えていただくだけで精いっぱいです」と謙遜ぎみの田原さん。

しかし「これからの抱負は？」との問いに、「まず、公民館だよりを定期的に発行し、活動の紹介はもとより、「コラム欄」を設けるなど親しみのある紙面づくりに努めたい」。また、町が計画を進めている(仮称)町民会館について、「利用者の声を十分ききながら研究し、町に要望していききたい」と意欲的に話されます。

年々、公民館活動が盛んになっていく中で、最近、各種教室、講座が開設され、非常に多くの人たちが参加しているものの、男子の利用が少く、「何か名案はないものか」とのことでした。

古黒部	春日	中道	上野	東野	舟見	櫛山	舟見	一宿	舟見	下山	下山	舟見	舟見	住所
廣島	高松	金山	泉沢	目田	広辰	辰尻	長島	池田	柳原	梨木	水野	金森	清水	西尾
	正功	貞実	千代	アヤ	ヌイ	伊亮	清松	作一	ヤヨ	せき	ミドリ	チノ	チヨ	氏名
56	52	23	74	71	67	64	79	61	83	73	73	71	76	0
本	本	憲	英	敏		本	本	本	今	本	久	本	彦	世
人	人	次	志	男	昭	人	人	人	朝	人	昌	昇	人	一



忘れたころに

『災害は忘れたころにやってくる』とは、本能的を射たことわざといえます。5月26日に発生した日本海中部地震は、秋田県を中心に、北海道から島根県まで被害をもたらしました。

「もし、大きな津波が入善に押し寄せていたら…」と想像するだけで、身の毛もよだつような気がします。

今月は、いま町が取り組んでいる防災計画の見直しについて考えてみました。



町では、

防災計画を見直し

本町の防災計画は、昭和40年度に策定され、既に18年余り経過しています。しかし、この間の社会経済情勢は大きな進展をし、住民の生活様式の近代化や行政組織も複雑化しており、時代に適応し

た防災計画が必要になってきました。また、昨年発生した長崎の集中豪雨や富士川災害などで、全国的にも地域防災計画の見直しが求められています。

防災計画は、大都市ばかりの問題ではなく、小さい町でも見直しが必要です。そして、新しい災害対策を考えるとき、水害や火災のみを想定しただけでは時勢に遅れてしまいます。

進むにつれ、心理不安も災害の一つとなり、被害拡大の要因となっています。災害対策を怠ると、人命にも大きく影響するものであり、行政全般にいえることですが、より住民と行政が力を合わせなければなりません。個人や家族レベルですべきことが分担され、しかもうまくかみ合っていない必要があります。

認識の低さが

被害の拡大を…

国・県・町・住民の

一体化が大切

さて、今回の日本海中部地震の特徴は、地震による直接の被害よりも、津波での被害が大きかった点です。被害拡大の要因の一つに、地震に対する関心や認識の低さがあげられます。

日本海側では太平洋側に比べ、地震が少なく、これまで大きな津波の被害が発生したケースが少なく、その対策が重要視されていなかったせいでしょう。

一方、発生が予想される東海地震の対策として、国ではとくに「地震防災対策強化区域」を指定し、また地域住民も「自主防災組織」を整備するなど、国・県・市町村・住



▲自主防災組織の育成を…

民が一体となって災害に備えています。東京都は指定除外区域ですが、関東大震災の惨事を繰り返さないため、町内会を中心とした防災組織を育成し、現在の組織率は約70％といわれています。しかし、実態は「行政主導型」であるなど、問題も多いようです。

防災を考える。。。。

災害は、

入善町の過去の

災害をみると：

昔から「黒部四十八ヶ瀬」といわれたように、入善町は黒部川などの水害に苦しめられ、それを克服して現在の町を築いてきました。海岸にも、この地方特有の寄り回り波や、季節風による激しい波が押し寄せ、さらに川が運び出す土砂の減少から海岸侵食が進み、田畑の流失、家屋の移転を余儀なくされてきました。

あまり知られていませんが、過去には津波も本町を襲っており、最近では昭和24年、佐渡相川付近で発生した地震のときに押し寄せ、堤防欠壊などの被害を受けていま

す。

そのほか、舟見や目川の大火な

迫られる

迅速な対応策

今回の津波警報発令時、あなたはいつ、どこで、その情報を得ましたか。思い出して、もし津波がきていた場合を想像してみてください。

町では、県から無線で警報を受信、すぐ広報車を出動させる一方、各機関・団体に通報し、警戒体制を整えました。しかし、対応が十分であったとはいえません。

防災計画は、何十年に一度、発生するかしないかわからない災害を想定することから、どうしても

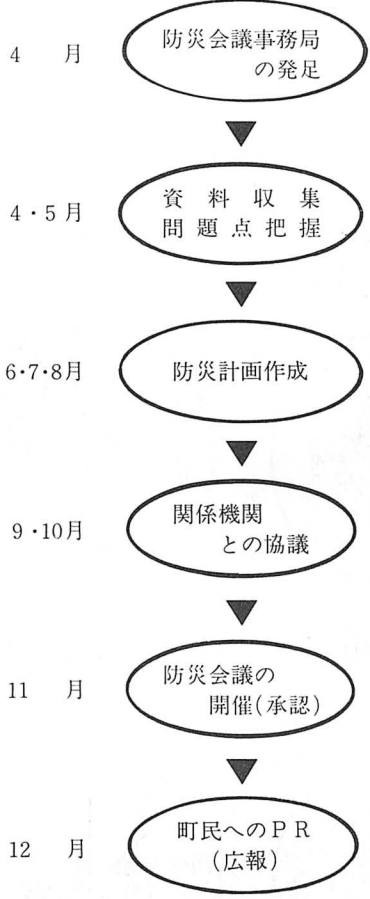
ど火災も多く、近年になってから交通災害が多発しています。

その場限りの間に合せになってしまふ傾向があります。

町では、このようなことがないよう、今年4月から関係機関と協議しながら、今まであった防災計画の見直しを行っています。11月までにその計画をまとめ上げ、広報12月号で町民のみなさんにお知らせしたいと思います。

防災計画について、意見・要望がありましたら、企画財政課・企画係 ☎72-1100 内線56番までどしどしお寄せください。

入善町地域防災計画の策定日程



防災会議

会長が入善町長で、委員として①指定行政機関の職員②富山県の職員③富山県警察の職員④入善町の職員⑤教育長⑥消防長⑦指定公共機関・指定地方公共機関などで組織されます。

旧	午前9時から 正午まで	正午から午後 5時まで	午後5時から 午後10時まで	午前から午後5 時以後まで
	1人1日につき 100円			



新	午前9時から 正午まで	正午から午後 5時まで	午後5時から 午後10時まで	午前から午後5 時以後まで
	1,000円	1,000円	1,200円	1,500円

勤労者福祉センターの使用料のうち、和室のみについて、7月1日から次のように使用料を改正します。



**使用料を
改正します**

入善町勤労者
福祉センター

入善町民号

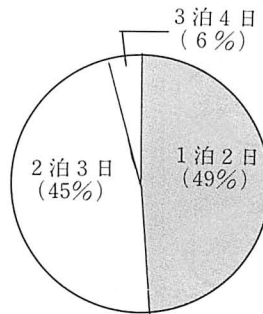
参加者191人にききました…

“入善町民号”が5月18日・19日に運行されましたが、今回参加されたかたがたに次のようなアンケートを実施してみました。

(参加者 191名中、回答者 182名)

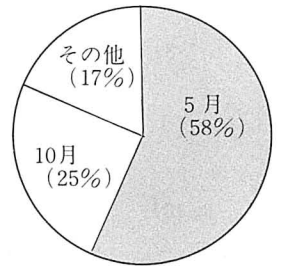
〈問い2〉

旅行日数は？



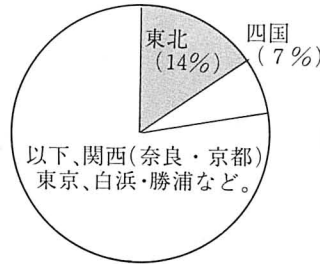
〈問い1〉

旅行時期は何月がいいですか？



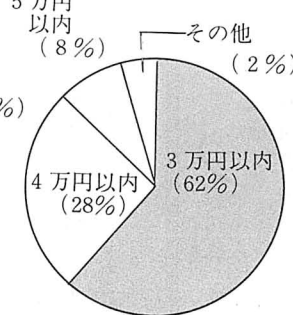
〈問い5〉

目的地は？



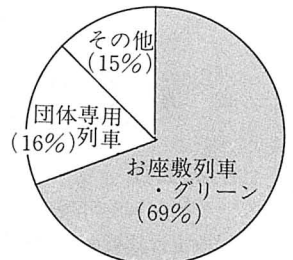
〈問い4〉

旅行の会費はどのくらい？



〈問い3〉

団体旅行で、国鉄利用の種別は？



石和温泉いかがでしたか？
 拝啓
 つゆ明けも近づき、町民の皆様には
 益々ご健勝のことと思えます。
 先般「入善町民号」を運行しましたところ、
 ご多忙にもかかわらず多数の参加をいただき、
 まことに有難うございました。心から感謝申
 の目的を達成できましたこと、申し上げますようお
 し上げます。 格段のご協力を賜りますようお
 願います。 今後とも、
 昭和小金治師匠の講演会
 入善駅利用促進協議会
 入善町長 柚木春雄

このほか、「ゆったりした旅がしたい」「バスの強行日程は避けたい」などの意見が出ています。何はともあれ、①費用が安く、②お座敷列車などで楽しい旅を…というのが、参加者の一致した意見のようです。

お知らせ



募集

町民登山(北ア・大日岳)

◆今年の「町民登山」は、北アルプス大日岳(標高2498m)を予定しています。体力に
 応じて「健脚コース」と「初級コース」に別
 れて登ります。▼日時：7月17日(日)午前5時
 30分役場前集合、午後6時30分帰着(雨天中
 止)▼申込み：7月13日(木)まで役場社会教育
 課まで☎72-11100内線67番▼定員：40名
 (先着順)▼参加費：500円▼持ち物：雨具・
 帽子・軍手・タオル・弁当・水筒・ビニール
 など▼服装：長袖のカッターシャツ・ズボン
 (トレパン可)・登山靴(キャラバン・ズツ
 クでも可)

「一日里親」を

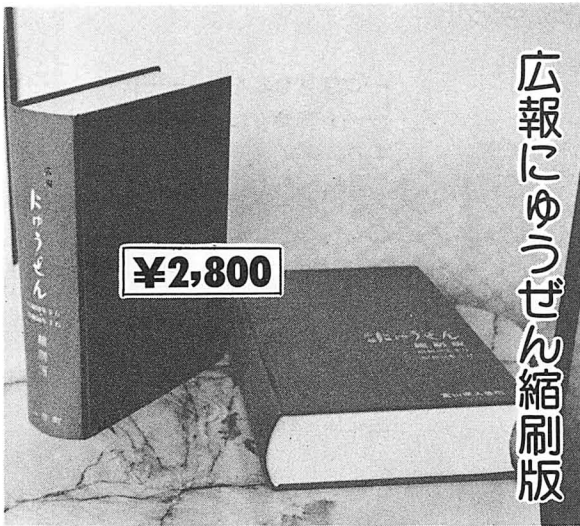
◆両親不在などの理由で、児童福祉施設に入
 所している児童を、一般家庭で一日生活させ
 ようと「一日里親」を募集しています。▼期日
 ：8月20日(土)～21日(日)▼募集数：14家庭(2
 人1組で、14組が入善町に來ます)▼申込み
 ：7月15日(金)まで町社会福祉協議会☎72-15
 686まで。



案内

桂小金治師匠の講演会

◆入善町PTA連絡協議会では、PTA指導
 者研修会の一環として、次の講演会を計画し
 ています。どなたでも参加できますから、気
 軽にお越しください。▼日時：7月17日(日)午



予約は今月いっぱいです。

広報にゆうぜん縮刷版

広報にゆうぜんの創刊号（昭和29年9月1日発行）から307号（昭和58年3月1日発行）までを1冊の本にまとめる「広報にゆうぜん縮刷版」――。

すでに5月中旬から、区長さんを通じて「予約受け」していますが、6月末で約1,800冊の申し込みがありました。

印刷の都合上、今月いっぱい受付けを締切りますから、まだ予約しておられないかたは、すぐ申し込んでください。

- 予約価格…1冊 2,800円
- 申込先…各地区の区長
- 申込締切日…7月30日
- 配布予定日…10月1日
- 問合せ先…役場広報係 ☎72-1100内線39番



奨学生を募集中

「入善町奨学金支給規則」による昭和58年度奨学生を、次のとおり募集します。なお、この奨学金は返済の必要はありません。

■ 対象

- 現在高校に在学している人
- 入善町に在住するかたの子女
- 身体強健、品行方正、成績優秀な人
- 学費の支弁が困難な人
- 在学する学校長の推薦があること

■ 金額…1か月・6,200円

■ 募集人員

高校1年生5名 } 計8名
 高校2年生3名 }

※ 申込み多数の場合は、選考します。

■ 申込み

学校長の推薦を受けて、9月末日まで町教育委員会へ。
 (願書は、9月初めに各高校)へ郵送します。)

■ その他

詳しいことは、町教育委員会学校教育課まで。

☎72-1100内線61番

お知らせ

後2時20分▼会場：入善中学校体育館▼演題：「家庭の教育」▼講師：落語家・桂小金治師匠

PTA教育無料相談

▼7月7日(木)：「学習」 嶋田久一(元入善小学校長)「生活」 杉本善治(元入善西中学校長)▼7月21日(木)：「生活」 住吉栄二(飯野小学校長)「進路」 田原帥宏(県教委総務課主幹)▼場所：福祉会館2F▼時間：午後5時30分～7時30分



催物

「わらび座」公演

■ 民族歌舞団「わらび座」が入善にやってきます。わらび座は、秋田県田沢湖町を本拠地に、全国各地で公演活動を続けている民族歌舞団です。今回は以下のプログラムのよう日本に古くから伝えられ、育まれた伝統芸能を通して、民衆の生活や戦い、生きる喜びなどを、美しい踊りと歌で伝えていきます。

▼日時：7月21日(木)午後6時30分開演▼会場：福祉会館大ホール▼料金(前売券)：一般2千円、高校生1千300円、小・中学生800円(当日は、それぞれ300円高)▼前売券発売所・問い合わせ先：入善わらび座事務所・横川材木店(入膳)☎72-0596▼プログラム・第1部：平和への歌声(自由への讃歌、エーテルワイスなど)・第2部：民族舞踊(八丈島太鼓・古代神、アイヌの歌と踊りなど)▼主催：入善町わらび座を観る会▼後援：入善町・入善町農協・県教育委員会など

私たちの広場

ご意見などを
お寄せください

この広場は――

- ご意見 ●イラストやマンガ ●ゆずります・ゆずってください ●グループの紹介……などに利用したいと考えています。

紙上匿名は自由ですが、原稿には必ず住所・氏名を明記してください。

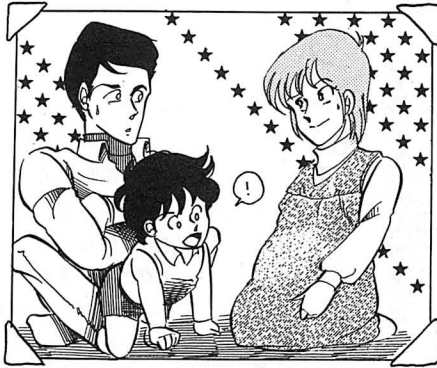
広報係 ☎72-1100内線39

▶その5

『お母さん
なに食べたの?』

イラスト

泉 裕子さん
(高3・上野)



ふるさとを離れて6年になります。通勤の満員電車や、都会の喧騒にもようやく馴れてきました。ところが最近よく富山の方言が出るようになりまして。先日も壁の額が「かたがっている」と言ったら主人に笑われてしまいました。

表面的には都会の生活に馴れ親しんでいても、内面では「ふるさと」への想いが強くなっている自分に驚かされます。

当地は冬から一足とびに初夏になってしまい、今ごろは、田んぼが一面の萌えるような緑におおわれている入善がとてなつかしく思い出されます。

私が住んでいる菊名付近には、まだまだ自然が多く残されていて、



安齋敏子さん

『入善の女は、サッチャー!?』

ふるさと

への便り

春には、一、二回ながら、近くの丘からうぐいすの声もきこえてきますし、よもぎを摘んで、草もちに何が入っているかも知らない都会育ちの友達に「これがほんとうの草だんごよ」と自慢することもできます。

また、高いだけがとりえのわが家からは、空気の澄んだ日には遠く足柄山麓から白い雪をいただいた富士山を望むことができます。

が、その眺望は入善平野から見る北アルプスの峰々には、とうてい及びません。

時折気まぐれな風は、横浜港に入港する船の汽笛を運び、海の近いことを教えてくれますが、ふるさとのように潮の香りまでは運んでくれません。

旧姓―三日市、入膳出身。
昭和42年入善高校を卒業。
現在、東京都港区の曹洞宗
宗務庁勤務。
横浜市港北区大豆戸町在住、
34歳。

それにも増して、大きく違うのは、魚です。初めのころはとも買いうれなれなかつたお刺身にもようやく慣れてきました。それでも、時々自分の懐くあいも考えず、おいしい魚を探して歩きます。

このような憧憬にも似たふるさとへの想いが「方言」となっているのではないかと思います。毎月お送りいただきます「広報にゆうぜん」は、中学、高校時代のアルバムと共に、本箱のかたすみに大切にしまっておきます。

「わが家の入善」が自分の本箱のかたすみにあるとも知らず、わが家の関白亭主は「入善の女はサッチャーのように気が強い」などと言いつつ、入善の米を食べ、入善からの干物を食べております。入善には、私を生み育ててくれた父と母がおります。

夏にはふるさとへ帰ります。

この欄への原稿を募集
しています。町外・県外
へ行っておられる方、ぜひ
お便りください。
あて先は、広報係まで。

グループ登場



「うつつとうしい梅雨が明ければ、もうすぐ暑い夏が」。今月は、サーフィン（波乗り）にかけるヤング・グループを紹介します。

その名も「入善サーフメイト」と、いかにも若者らしいグループです。入善町農協・農業機械センターに勤める田芳範さん（高島・25歳）ら男性7人がそのメンバーです。

「波？そりやー怖いよ。だけど、人間を包み込むような波に乗った

波乗り それは男のロマン 『入善サーフメイト』

ときのスリルは、やった人でなければわからないだろうネ。これは「男のロマン」です」と、満面に笑みを浮かべながら話します。

黒部川河口、朝日町の宮崎や本屋敷の沖合が彼らの練習の場。波に乗りやすい時間帯が、陸風が吹く早朝と夕方であることから、人目につきにくく、「入善にもサーフィンライダーがいるっていうこと、これを機会に認識してほしいですネ」と、自分たちのPRに躍起です。

荒海に挑戦する勇姿も、まず「泳げること」と「体力」が最低条件。「サーフィンのお陰で、風邪もあまり引かなくなつたし、彼女からも「男っぽい」と言われるようになった」と、テレながら話す表情がとても印象的でした。

新着図書案内

小説

- ぴいひゃらどんどん 青島幸男
- 二分割幽霊綺譚 新井素子
- 彼とぼくと彼女たち 片岡義男
- 現代家族 黒岩重吾
- 小説日本国有鉄道 近藤豊
- 続ミスターは死なず 戀塚稔
- 小説田中絹代 新藤兼人
- だいじょうぶマイ・フレンド 村上龍

一般図書

- NHKクイズ面白ゼミナール 鈴木健二
- 新日本人は死んだ トケイヤー・M
- あなたの肌も必ず美しくなる 武知国夫

あなたと図書館

本との出会い ゆたかな人生

宮沢賢治「セロ弾きのゴーシュ」を読んで



三日市恵子さん
(入善中3年)

ゴーシュはセロが下手だった。指揮者にはいつもバカにされた。ところが、彼の演奏を動物たちは聴きに来る。彼の下手な演奏を聴くと病気が治るといいます。

いったんは腹を立てたゴーシュの心はいつか和み、ある日の演奏で聴衆を感動させる。優しい愛情

「動物なんかには演奏するのはばかでも、ゴーシュは

のを初めとして、いろいろな動物たちが彼の演奏を聴きにきました。そのたびに、ゴーシュは彼らに冷たくあたり、鼻であざ笑うようにして、変てこな演奏をしては返しました。

に満ちあふれた物語です。

ゴーシュは、指揮者に冷たくあたられてもジッと我慢して、毎夜、夜明けまでセロの練習を続けました。

このひたむきさから、ゴーシュが負けず嫌いでたいへんな努力家であることがうかがえます。

そして、猫が演奏を聴きに来た

らしい」と、内心思っているようですが、ちゃんと弾いてあげたり、野ねずみの病気が自分の演奏で治ったことを知って、パンをあげたりする心優しい人なのです。

ついに音楽会の日がやってきて、アンコールにはゴーシュが出ました。すると思いかげなかったことに、楽団の仲間や楽長からうんとほめられました。毎夜の練習が実を結んだのです。

きつと作者は、何でも努力すると報われる、そういうことを知って欲しかったのでしょう。

振り返ってみると、現在私たちの回りは「努力のたまもの」でいっぱいのように思えます。なぜかという、建物だってそうだし、人間にしても努力して好きな職業

について、努力しない人もいます。そういう人は、努力して味わえる喜びを知らない人だと思えます。つらくとも努力して乗り越えようと、きつと新しい道が開けてくるんだから。



子ども読書週間

ポスター展・金賞作品

杉本 巨くん(入善小6年)

写真・右／昭和34年当時の田中海岸・左／現在の姿



古い写真と原稿をお寄せください

私たちの歩みを、このページに

町民のみなさんはもうご存知のことと思いますが、入善町は昭和28年10月、入善町、上原村、青木村、飯野村、小摺戸村、新屋村、栲山村、横山村の1町7か村が合併しました。そして5年後の34年1月、野中分離地区を含む舟見町が編入合併し、現在に至っています。

あれから30年を経た昭和58年。町では、この合併30周年を祝ってさまざまな記念行事を計画しているところです。

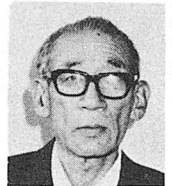
広報係でもこれと併せて、『わがまち今昔』『30年とわたし』というテーマで、私たちの歩みを振り返ってみたいと思います。

『わがまち今昔』では、昔の写真と現在の姿を見比べます。古い写真をぜひ提供してください。

『30年とわたし』では、あなた自身の30年をつづってください。

あて先は、役場広報係(☎72-1100 内線39番)です。

30年とわたし



町の海岸と漁業の移り変わり 清田清一さん (声崎・71歳)

30年前、町一帯の海岸は砂山と松林続きで、海岸ならではの自然美があった。堤防から波打ち際まで砂や玉砂利が、50〜70ぶぐらい続き、夏は海水浴も自由にでき、思い出多い、懐しい海であった。ところが今は、どうだろうか。

ろうが、昔の海岸の面影を知る一人としては非常に寂しい限りだ。海岸の様子が一変したのと同様に、町の漁業においても著しい変遷があった。

戦前は北海道、樺太方面への出漁者が多かったが、戦後は地元で漁業を営む以外に生活の道がなく、1トン程度の小型の木舟で櫓や櫂を操り、いか釣り、手操網、地曳網が主力だった。そのうちに、声崎・吉原・横山には小型定置網5か統が敷設されるようになった。

護岸対策として、離岸堤の建設やテトラポットの投入は、今後も継続していかなければならないだ

堤防に舟揚げ斜路があり、高波の場合避難のため、堤防の上まで船を引き揚げなければならなかつ

た。その仕事が大変な苦勞と困難を伴った。そんな時、漁港の新設の声が高まったのである。県や水産庁へ強力に運動を続けた結果、昭和39年によく漁港建設に着手されることになったのである。

20年経った今日、漁港も整備され、各漁協に中型や大型の定置網が敷設され、また刺網、いか釣り、手操網など、沿岸漁業も盛んになっている。

航海も網の巻揚げも全て機械化された。入善漁港を根拠地として、何十隻もの漁船がエンジンの音勇ましく出入港する光景は、これからの漁業の発展を約束しているかのようである。

漁港で張り切る漁師と雑談しながら、また海岸を散歩しながら、この30年間をしみじみと振り返る私である。

編集室

今月の人口

人口	29,775 (+11)	29,690
男	14,239 (+12)	14,183
女	15,536 (△1)	15,507
世帯数	7,672 (±0)	7,413
	()内は前月比	前年同月
	6月1日現在住民登録	

▼「町長と語る会」が、先月から各種団体と開かれています。

▼初日の6月23日は連合青年団、25日は農協青年部のかたがたとそれぞれ膝を交えて懇談しました。

▼連青との会合では、「地区団の活動場所を確保してほしい」といった身近な要望から、「上下水道整備の見直しは」「姉妹都市の提携の考えは」など、今後の町政執行計画について、活発な意見交換がありました。

▼今月は、1日・商工会青年部(午後8時30分・商工会館)、12日・漁業者(午後5時・声崎漁業研修社)、13日・連合婦人会(午後8時・福祉会館)、そして中旬以降には勤労者団体との懇談を予定。ぜひ参加してみてください。